

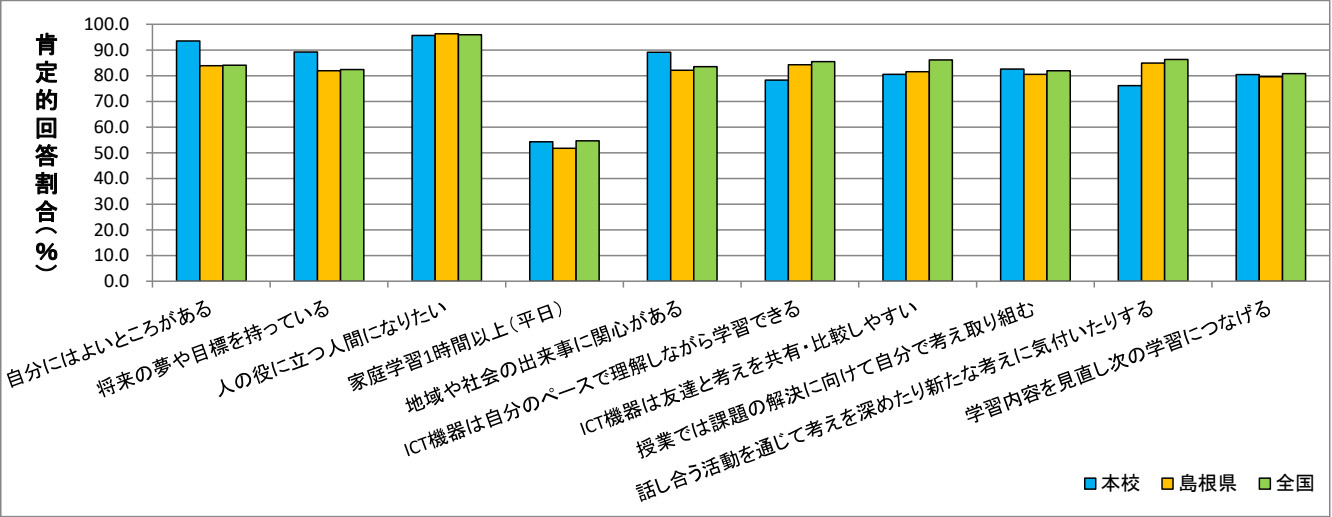
(1)学力調査結果から見られた傾向

	成果と課題(○:成果, ●:課題)	対 策(・)
国語	○平均正答率が、県平均・全国平均をいずれも上回った。 ○いくつかの条件に合わせて書く設問の正答率が高い。 ●既習漢字の中に定着の不十分なものがある。	・条件を満たして書く活動を意図的に設定し、その指導の工夫と適切な評価について継続して取り組む。 ・既習漢字を生活に活用していく習慣づくりをする。
算数	○平均正答率が、県平均・全国平均をいずれも上回った。 ○無回答率が低く、粘り強く問題に向かうことができている。 ●「速さ」の学習の定着に弱さがみられる。	・課題の見られた学習内容について、帯タイムや家庭学習等を活用して定着度を高める。 ・日々の学習において、課題に最後まで取り組む、間違いを直したりそうなるわけについて考えたりするなど前向きな学習姿勢を高めていく。

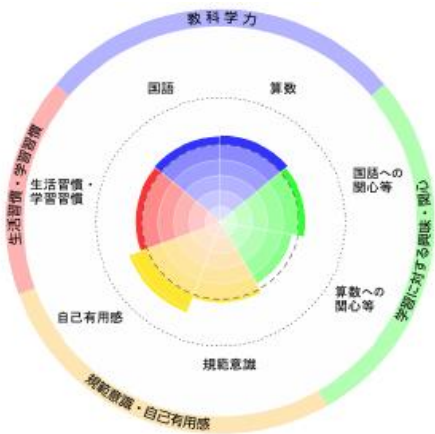
(2)質問紙調査から見られた傾向

	成果と課題(○:成果, ●:課題)	対 策(・)
質問紙	○「自分にはよいところがある」「将来の夢や目標を持っている」ことについての肯定的回答が高い。 ●「話し合う活動を通じて、考えを深めたり新たな考えに気付いたりする」ことについて肯定的な回答率が低い状況が数年続いている。 ●「算数が好き」に対する肯定的回答の割合が低い。	・対話により考えを深めていく授業づくりを継続していく。 ・各教科内容のよさや日常生活との関連等について考える学習場面を設定していく。

(3)質問紙調査の結果より(学力との相関が指摘されているものや、教育委員会として注目しているものを挙げています。)



(4)学力・学習状況調査結果チャート(破線は全国平均)



(5)その他、今後特に力を入れて取り組むこと

- ・学校の教育活動全体を通して、児童の自己有用感を高めていく取組を継続していく。
- ・朝読書、帯タイム学習、書取り計算会等を継続し、読書週間や基礎基本の定着を図る。

【受検者数】
45 名

※欠席等により調査によって受検者数が異なる場合は、最少の受検者数をもって表示。